



ワークショップでの天敵観察の様子

IPMアドバイザー講習会による 総合防除指導者の育成

一般社団法人全国農業改良普及支援協会 調査研究部

部長 草間 直人

総合防除ガイドラインにおける人材育成の位置づけ

農林水産省が令和7年9月に策定した「総合防除実践ガイドライン」（以下、ガイドライン）では、総合防除の推進に向けた具体的方向性が提示されている。その中で、第一に掲げられているのは「防除指導者及

び地域リーダーの育成・伴走支援体制の整備」である。今回のガイドラインには「実践」という文言が入っており、農業者に総合防除を実践してもらうため、①総合防除のメリットの理解、②予防と予察への意識向上、③総合防除実践指標をもとにした技術導入、の必要性が掲げられている。

これを生産現場および農業者に広く浸透していくために、防除指導者の計画的育成や、総合防除に関する知見と技術を有する人材の活用が欠かせないとしている。人材育成にあたっては、総合防除（以下、IPM）に関連する資格の活用が期待されており、ガイドラインの中でも、（一社）全国農業改良普及支援協会（以下、普及支援協会）で実施する「IPMアドバイザー」が一例として挙げられているので紹介したい。

表1 IPMアドバイザー講習会のカリキュラム

IPM概論	IPMの基本的な考え方や歴史を紹介し、普及指導における心構えなどを学習する。
IPM技術概要	既存技術（慣行防除）との違い、各種防除法、各種防除資材などについて概要を紹介する。化学的防除では、IRAC、FRACについて、作用機作の異なる薬剤のローテーションの必要性について学習する。
IPM技術①（病害防除）	IPMにおける病害防除技術について、土壌伝染性病害対策等を例に学習する。
IPM技術②（害虫の生物的防除）	生物的防除技術について、各種天敵や微生物の特徴および利活用方法について詳細（市販資材の特徴と使い方）を学習する。
IPM技術③（各種防除手段の位置付けと生物的防除）	IPMの中での各種防除手段の位置付けと問題点および、地域に生息する土着天敵の保護強化による生物的防除の位置付けと展開方法（生態系サービスのIPM体系への取り込み）とその意義について学習する。
IPM技術④（防除体系）	施設野菜を中心にIPM防除体系の構築方法と普及推進方法について学習する。
ワークショップ①	農家指導の演習を行い、実践的な指導方法を学習する。 ・農家とアドバイザーとのロールプレイング形式のIPM指導演習
ワークショップ②	天敵の観察を行い、実践的な指導方法を学習する。 ・実体顕微鏡およびルーペによる天敵製剤の観察

IPMアドバイザー講習について

IPMを指導する技術者に求められるものは、現行の防除体系の問題点を把握し、各種防除技術の中から、防除面で適切でありコスト面で普及性のある資機材による防除体系を提案できる能力である。普及支援協会では、この能力を有する者を「IPMアドバイザー」として資格認定することにより、IPM指導者の養成および拡充を図り、IPMの推進に

寄与することを目指して、令和2年度より「IPM指導者認証制度事業」を実施している。

2日間の講習を経て、資格試験に合格した者がIPMアドバイザーとして認定される。病害虫の専門家を招いた座学に加え、演習や観察なども取り入れ、まさにガイドラインの目指す「実践」に重きを置いたカリキュラムとなっている（表1）。

全国の登録状況

令和7年11月現在、全国で401名がIPMアドバイザーとして認定登録されている。IPMアドバイザー名簿は普及支援協会のホームページ (<https://www.jadea.org/>) に公開されており、うち半数程度がメールや電話番号などの連絡先も公表し、誰でも連絡・相談できるような体制を整えている。

IPMアドバイザーの職種内訳は、図1の通りで、都道府県職員が最も多い。地域や都道府県により人数の偏りがあり(表2)、群馬県、長野県、三重県、京都府、熊本県などで普及指導員等の登録が多い。登録者数の

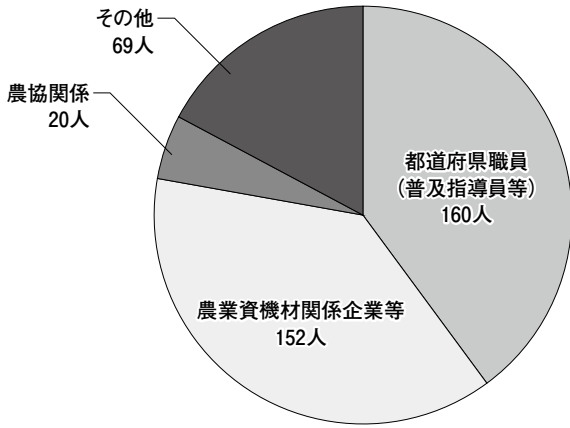


図1 IPMアドバイザーの職種

表2 IPMアドバイザーの地域別人数 (都道府県職員)

地域	人数
北海道・東北	7
関東	24
甲信越	12
北陸	7
東海	33
近畿	17
中国	8
四国	12
九州・沖縄	40
計	160

多い県の中には、みどりの食料システム戦略に係るみどり認定を受けた農業者を増やしたい意向があり、そのために現地指導ができる人材を育成する必要があるため、「みどりの食料システム戦略推進交付金」や「消費・安全対策交付金」などの交付金も活用しながら計画的に受講者を確保している県もある。

受講者アンケート結果 (令和5～7年度)

IPMアドバイザー講習会の受講者全員にアンケート調査を行っているが、毎年、高い満足度が得られている。具体的な意見を要約した。

(1) 高評価の概要
① 内容の充実度
基礎から実践事例、最新の取り組みまで幅広くカバーしており、「自

らの地域や現場と照らし合わせて考えることができた」「学んだことをすぐに生かせる」との声が多く見られた。

② 講師の分かりやすい説明
充実した講師陣が評価されていることに加え、写真やデータを用いた解説が理解しやすく、「難しい内容でも具体的にイメージできた」との意見が多数あった。

③ 現場に即したテーマ設定
農薬使用の削減、天敵利用など、実際の栽培管理に関する話題が多く、「現場の課題解決につながる」との声が多く寄せられた。

④ 意識向上効果
IPMの考え方を学ぶことで、持続可能な農業への関心が高まったという前向きなコメントが多かった。

(2) 改善要望の概要

① 時間配分・構成の見直し
カリキュラムの内容が充実している一方で、「発表時間が短く、質疑の時間が足りない」など時間設定への改善を求める声があり、毎年、講義内容と時間の見直しを行っている。

② レイアウトの差

初心者にはやや専門的すぎるといった意見や、逆に経験者には基礎的すぎる内容も含まれていたとの指摘があり、受講者に知識や経験の差が生じている。受講資格の見直しや、予習として入門編の動画視聴サービスタなどの改善を図っている。

このような声に耳を傾け改善を重ねることで、満足度や理解度の向上に貢献できたと考えている(図2、図3)。

また、アンケートでは、IPM指導上の課題も調査しており、表3に整理した。回答の多くは「技術・知識の体系的支援が不足している」という指摘であり、指導体制や関係機関との連携強化なども課題として挙がっている。

今後の展開

前述の通り、IPM推進上の課題は多い。少しでも課題解決につなげられるよう、情報発信や情報共有の場づくりを継続していきたい。

また、IPMアドバイザー講習会は初級編の位置づけである。今後、IPMアドバイザーのさらなるレベルアップを図るため、応用編となる

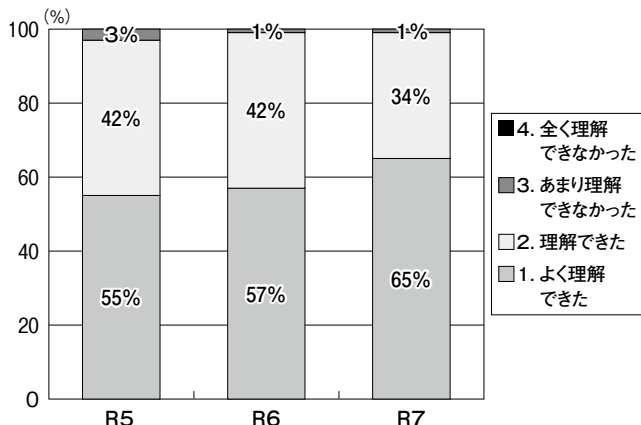


図3 IPMアドバイザー講習会受講者の理解度

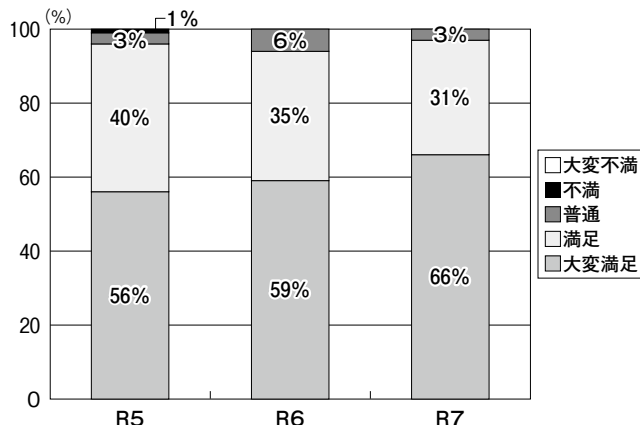


図2 IPMアドバイザー講習会受講者の満足度

表3 IPM指導上の課題

分類	主な課題・意見
① IPM・有機農業の技術的根拠と事例不足	IPMや有機農業を推進するにあたり、「根拠を持った指導」「成功事例の共有」が不足している。実践者・普及指導員ともに、科学的・技術的な裏付けを持った指導体制の整備が必要。
② 害虫・天敵のモニタリング指標の欠如	害虫と天敵の発生状況を評価する「要防除水準」「被害リスク評価」などの客観的指標が不足。現場での判断基準が曖昧。
③ IPMの理解・実践方法の周知不足	「IPMが具体的に何を指すのか分かりづらい」「防虫ネットや天敵利用など部分的な認識にとどまっている」といった声。IPM体系としての啓発や事例共有が必要。
④ 農業者の意識と普及活動の難しさ	IPMや有機農業に関心の薄い農業者への働きかけが難しい。実践的なメリット提示や成功事例の発信による意識醸成が必要。
⑤ 技術支援・指導人材が不十分	IPMや有機農業の技術を学べる場が限られており、「どこで技術を習得できるか分からない」「現場で指導できる人が少ない」という声が多い。
⑥ 行政・普及機関の理解不足と連携の課題	IPMに関する行政担当者や普及指導員の理解が十分でなく、推進施策との連携が弱い。政策レベルでの位置付けや支援体制の強化が求められる。
⑦ 試験研究・技術開発の連携不足	実証試験・比較データの不足、自社資材中心の研究姿勢などが指摘されている。試験研究機関（部門）と生産現場の連携強化が課題。

研修を企画していきたくと考えている。その一つとして、令和7年度には「有機農業ほ場における総合的病害虫雑草管理方法および土着天敵活用に関する現地研修」を開催したところである。次年度以降も継続しつつ、メニューを拡充していきたい。

一方で、IPMアドバイザー講習会の受講に当たって前段となる研修の必要性も感じている。若手普及指

導員などを対象とし、病害虫防除関連の基礎的な知識を身に付ける研修等を、eラーニングなどの活用も視野にいれながら検討をしていきたい。

IPMアドバイザーが、地域や農業者の伴走支援者となって活躍すること、ガイドラインの伴走支援体制の整備に貢献することを期待している。

お知らせ

3月にIPM実証調査最終成績検討会を開催
(令和7年度全国農業システム化研究会)

全国農業システム化研究会では、IPMに関する実証調査事業に取り組んでいます。この度、IPM技術の理解・検討を深め、その普及・定着を図るため、実証調査結果(キユウリ、メロン、夏秋ピーマン、イチゴ、露地ナシ)を持ち寄り、成績検討会を開催いたします。なお、会場参加またはオンライン参加となります。

詳細は、EKSYSTEMの「お知らせ」に掲載予定の開催要領等をご覧ください。

■開催日時

令和8年3月12日(木)
～13日(金)

■会場

アルカディア市ヶ谷(千代田区九段北4-2-25)およびオンライン(Zoom・YouTubeLive)

■問い合わせ

(一社)全国農業改良普及支援協会
調査研究部

☎031581714992

E-mail: sysken@jadea.jp